

研究授業「乳児保育」の実施

影 浦 紀 子*

Enforcement and reflection of open class “Care and education for infants”

Noriko Kageura

(Abstract)

This paper is the record of an open class performed in the Department of Early Children Care and Education of Takamatsu Junior College. This class has aimed to acquire knowledge and a technology necessary to make up life with the baby as a nursery teacher. The target of the class is to acquire significant to each one of child's development, and the support of the child care worker's help by deep development understanding.

In this paper, first of all, the purpose and the trait of the class are arranged. Next, the appearance of the development of an actual class is recorded. Finally, the ideal way of the class is considered basing the class conference held after the class.

Key words: Open class, conference

はじめに

本稿は、「保育学科におけるFaculty Development活動の実施」(大学教育高度化推進特別経費 平成19年度教育・学習方法等改善支援経費)の一環として行われた「乳児保育」の研究授業の記録である。本学科での研究授業は、今回で14回目を数える。本講義は、平成21年度としては1回目の研究授業である。

* 提出年月日2009年11月30日、高松短期大学保育学科講師

1. 研究授業の日程

研究授業および、検討会は、次の日程で行われた。

○ 研究授業

日 時：平成21年 6月18日 3校時 13:00～14:30

場 所：2101講義室

対 象：保育学科1年生（63名）

授業科目：乳児保育

授 業 者：影浦 紀子

○ 検討会

日 時：平成21年 6月18日 18:00～

場 所：2217教室

2. 本講義の目標と授業の特色

この授業は、保育士として乳児との生活をつくりあげていくために必要な知識と技術を身に付けることを目的としている。通年の授業で、前期は理論を中心に影浦が担当し、後期は実践を中心に樋口先生が担当している。

前期では、乳児期（3歳未満）の発達と乳児を保育するための基礎的な技術を理解することを目標としている。授業を通して、乳児の発達の一つひとつに意味があり、何気ない保育者の援助は、深い発達理解に支えられているのだということに気がついてもらいたいと考えている。成績の評価は、前期末に授業時間内に行われる試験、夏休み中の課題（乳児のためのおもちゃもしくはレポート課題）、後期末の授業時間内に行われる指導案作成試験、出席、授業態度等を考慮して総合的に行っている。

主な1時間の授業の流れ、特徴としては、(1) 乳児保育における文化財・教材・遊びの実践的技術の習得、(2) 前時の振り返り、(3) 授業の内容、(4) 授業の振り返りに別れる。

(1) については、「ちいさなおはなし会」と題して、乳児期にふさわしい手遊び、指遊び、わらべ歌、絵本の読み聞かせ等の児童文化財、教材を実践することで体験的な習得ができるようにしている。（*これまでに紹介した遊びについては4を参照）

(2) については、前時に書いた学生のミニレポートの紹介を通して行っている。これ

は、毎回授業の最後に、授業の感想、意見、質問を書き、提出するもので、出席の確認としての役割もある。このミニレポートでは、日ごろの幼い子どもとの触れ合い体験や、観察したこと、学生たち自身の保護者と話をして感じたことなど、授業以外の内容も認めている。前時の振り返りだけでなく、学生たちの不安を共有したり、学びの体験を肯定的に評価し、紹介することを通して、学習意欲の向上や保育者としての自覚を促す時間にも活用している。

(3) については、4のこれまでの講義の内容にも示すとおり、発達段階ごとに、4つの項目（年齢発達順に、1. 心と身体の発達・2. その時期の発達の特徴・3. 養護と生活・4. 遊びと環境）に分けて学習を進めている。授業では、基本的に毎回A4用紙1枚のワークシート形式のプリントと資料1枚が配布されており、プリントやテキストに書き込む形で授業を進めている。プリントは、イラストや写真、図を積極的に用いるようにしており、学生たちにも板書をうつさせるだけでなく、イラストと一緒に描くなどの作業を通して発達の理解を進めている（資料1参照）。また、教材として、乳児、もしくは乳児を保育しているVTRを毎回、10分以内で用いること、写真を多く見せること、具体物（乳児の人形、おもちゃ、生活用品）を積極的に用いることを心がけている。

授業における問題点として、3点ある。一つは、乳児保育に関わるさまざまな情報が年々、更新されていっており、最新の情報を学生たちに伝えるための実践者自身の勉強不足である。二つ目は、情報量が多くなってしまい、重要なポイントをおさえることが難しくなっていることである。三つ目は、3校時の授業であるため、さまざまな工夫は施しているが居眠りが発生してしまうことである。

3. 学生たちの姿

授業している保育学科1年生（63名）は、非常に意欲的である。授業開始の5分前くらいから多くの学生が着席している。とくに学生たちは「ちいさなおはなし会」をととても楽しみにしていて、実践者も学生たちの気持ちに込めたく、この時間に関しては、いい相互作用ができています。授業は、「赤ちゃん好き、赤ちゃんに関する知識を知りたい」という学生も多く、全体的に静かに受講することができています。ミニレポートのなかにも、「発達の一つ一つに意味があることや保育者の振る舞いに意味があることを発見した」、「赤ちゃんに触れてみたい」、「実際の保育の現場に出てみたい」という声があがりつつある。

学習の過程で「赤ちゃんはかわいい」と乳児に対して興味を持ち、理解したいと意欲を持つことはできているが、その理解が表面的で、授業を聞いたその時間だけの理解にとどまっているようにも思われる。

4. これまでの授業の内容と学生の理解の流れ

これまでの講義の内容と学生の理解については以下の通りになっている。

	講義の内容	学生の理解と動き	ちいさなおはなし会
第1回 4/9	オリエンテーション-乳児保育基本ってなんだろう	複眼的思考と子どもの声を聴くことの意味と重要性について、ゲームや口頭詩を用いて理解した。	おはなしろうそく、くまさんおでかけ
第2回 4/16	充実した保育を0歳から一赤ちゃんって不思議、すばらしい	未熟さのなかに潜む発達の可能性と応答的環境の必要性について理解した。またなぜ乳児保育が求められるのか、その必要性について理解した。	ブラウンさんとブラックさん（素話）
第3回 4/23	乳児保育を支えるもの-乳児の育ちに影響を与える思想と文化（1）	前時の残り、乳児保育成り立ち（歴史）を押さえた上で、社会の中に潜む子育て思想や愛着理論について理解した。	小さな畑、カラスの親子（手袋人形）
第4回 5/7	乳児保育を支えるもの-乳児の育ちに影響を与える思想と文化（2） 出生から3ヶ月未満の保育-泣く＝誰かに何かを伝えようとする合図（1）	前時に引き続き、世界の子育ての文化から育児文化について理解し、保育所文化として保育所特有の視点や複数担任制について理解した。そして、3ヶ月未満における体と心の育ちについて理解した。	いっぽんばしいっぽんばし、てづくり絵本（名前絵本・しりとり絵本）
第5回 5/14	出生から3ヶ月未満の保育-泣く＝誰かに何かを伝えようとする合図（2）	3ヶ月未満児において特徴的な事柄、養護と生活、遊びとおもちゃについて理解した。抱っこの仕方や授乳の意味についてりかいした。	くいしんぼうのゴリラ、くだものなーんだ（絵本）
第6回 5/21	4ヶ月～8ヶ月の保育一人への基本的信頼感から愛着関係の育ちへ（1）	4ヶ月～8ヶ月における体と心の育ちについて理解した。	めんめんすうすう（わらべ唄）、おかあちゃんあそぼ（絵本）
第7回 5/28	4ヶ月～8ヶ月の保育一人への基本的信頼感から愛着関係の育ちへ（2）	4ヶ月～8ヶ月における発達の特徴として愛着関係の成立について、また養護と生活として養護概念の意味、安全に関わる環境整備、離乳食について理解した。	おておしてぶし（わらべ唄）、いないいないばあ（絵本）
第8回 6/4	9ヶ月～1歳3ヶ月の保育-赤ちゃんから幼児へ（1）	9ヶ月～1歳3ヶ月における体と心の育ちについて理解した。	ちょちょちあわわ・おやゆびねむれ（わらべ唄）
第9回 6/11	9ヶ月～1歳3ヶ月の保育-赤ちゃんから幼児へ（2）	9ヶ月～1歳3ヶ月における発達の特徴として三項関係の成立と言葉の発達、養護と生活として保育室の環境整備等について理解した。	かわずのよまわり、くつくつあるけ（絵本）
第10回 6/18	本時		

5. 本時の授業展開と考え方

(1) 本時の授業の目標

今回の授業のねらいは、大きく二つある。一つは、前回の授業の残りとして9ヶ月～1歳3ヶ月の遊びの理解を通して、乳児期の危険に対する配慮の必要性和発達段階による危険の特徴について理解することである。もう一つは、1歳3ヶ月から2歳の体と心の育ちについて理解することである。とくに、自我の芽生えに至る過程と象徴機能の発達による言葉の獲得、その際の保育者の援助のポイントについて理解してもらいたい。

(2) 準備物

「ちいさなおはなし会」において、ハンカチを利用した素話を行い、象徴機能の発達の導入にしたい。また、遊びと環境として手づくりおもちゃの紹介、子どもの発達と事故に関連してVTR『赤ちゃんの一年』（家森百合子・鈴木順子・弓削マリ子 制作著作/医学映像教育センター）、歩行の開始に関連してVTR『遊びの中にみる1歳児』（田中昌人・田中杉恵 監修/大月書店）を紹介する。「象徴機能」の理解を助けるためにりんごのペーパーサート、空き箱等を準備する。

(3) 本時の展開

①導入

授業の最初に、ちいさなおはなし会として、手遊び「ころころたまご」、素話「ねことねずみ」を行う。手遊びでは、学生の手遊びをする様子から笑顔、表現を評価することを心がけ、自信につなげたい。素話では、本時の内容である、象徴機能の発達の導入としたい。

②展開

まず、前時の残り、9ヶ月～1歳3ヶ月における遊びと環境、発達と事故について解説する。遊びと環境については、具体物を提示し理解を深める。発達と事故については、ビデオ教材を利用して子どもたちの事故が起こる瞬間、なぜ事故になるのかを考えさせ、発達を理解し、環境を整備することで事故は防ぐことができることを実感できるようにしたい。

次に、1歳3ヶ月から2歳の体と心の育ちについて理解する。発達の特徴についてイラストを描きながら理解し、運動機能の発達と自我の芽生え、象徴機能の発達と言葉の獲得の関係など体と心の発達を関連づけながら、発達を全体的にとらえることをおさえない。

③まとめ

本時の授業の内容を振り返るとともに、感じたこと、質問事項をミニレポートに記入する。63名という受講生の数のため、学生一人ひとりの感想や疑問に寄り添いきにくい。ミニレポートを通して学生たちの疑問に答え、授業のわかりにくかった点を補っている。また、ミニレポートには、季節のイラストを添え（資料2参照）、受け取るときには、一人ひとり「ありがとう」という言葉を添えて受け取るようにし、安心感を持って授業が受けられるように心がけている。

6. 本時の指導案

時間	活動内容	指導の留意点
13:00	<ul style="list-style-type: none"> ○ ちいさなおはなし会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手遊び「ころころたまご」 ・ 素話「ねことねずみ」 ○ ミニレポートの紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の復習と本時の目標 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけ早く教室に入り、学生たちと話をする時間を持てるようにする。 ・ 学生たちの手遊びに取り組む様子を評価し、意欲を高める。 ・ ハンカチなど身近な素材を使って遊ぶ面白さを伝える。また本時の内容（象徴機能）の導入としたい。 ・ 保育者も環境であること等、前時を振り返ることと、学習意欲の高まりを評価し、保育者としての心構えを感じる時間になりたい。
13:20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びと環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料やテキストから発達に即した遊びについて理解する。 ・ 手づくりおもちゃの良さを実感する。 ○ 子どもの発達と事故 <ul style="list-style-type: none"> ・ VTRから事故がおこる実際の様子を見る。 ・ 資料から事故と発達の関係を読み取り、事故を予測して防ぐことができることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の手づくりおもちゃを提示することで興味を持てるようにする。
13:40	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1歳3ヶ月～2歳の体と心の発達 ○ 発達の特徴をおさえながらイラストを描く ○ 歩行の開始から自我の芽生え <ul style="list-style-type: none"> ・ 1歳3ヶ月～2歳の子どもの様子をVTRで視聴する。 ○ 象徴機能の発達と言葉の獲得 <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物を見て象徴機能について理解する。 ・ 言葉の役割について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントの配布 ・ 子どものO脚や靴についてテキストや写真を参考に説明する。 ・ 絵を描くことにあまり時間をとり過ぎないように注意する。 ・ りんごのペーパーサート、歯磨き粉の箱
14:20	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミニレポートを書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に関する質問、意見、感想や日常的に子どもと触れ合った経験、そこで学んだことなど書いてよいことを伝える。
14:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ お知らせ：ボランティアの案内 ○ ミニレポートを受け取る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受け取るときには「ありがとう」と言って受け取るようにする。

7. 授業後の振り返り

(1) 授業者の反省

全体の印象として、ほぼ、いつもの通り全体的には静かな雰囲気中で、数名が居眠りをしているといった様子だった。授業者の緊張が伝わったのか、はじめの「ちいさなおはなし会」では、学生たちはいつもより緊張した表情であったように感じられる。

授業の内容が、予定していたよりも早く終了し、次週に予定している内容に触れることとなった。

今回の授業では、①子どもの遊び、事故が発達と関係していることを理解する、②歩行の開始から自我の発達の過程について理解する、③象徴機能の発達と言葉の獲得について理解することをねらいとしていた。

授業後の反省として、授業の内容に関しては、象徴機能の発達が言葉の獲得に結びついていく過程について、十分に説明ができなかったこと、授業の終盤、本時のまとめを十分に行うことができず、知識の定着を図ることが不十分であった。授業の方法に関しては、授業の最初におこなった小さなおはなし会において、学生たちが手遊びをしている様子を評価するなど、学生たちの活動の様子を認めたり評価したりする指導が行えなかった。また、板書の方法に統一感がなくわかりにくいものになってしまっていたこと、一斉授業の形式で授業が単調になり、集中が続かなかったこと、具体物の提示が多すぎて印象に残りにくかったことなどがあった。

(2) 授業後の検討会

授業後の検討会や授業参観記録用紙より、授業者の反省に反して、具体物の提示は、授業をあきさせない工夫として適度であると評価していただいた。また、授業が単調になってしまっていたことに関して、話題が変わる場合は、一息入れたり、内容が変わる言葉があってはどうかというご意見をいただいた。

そのほかに授業者が今後の授業を進める上で参考になったこととして、授業における年齢区分と保育所保育指針における第2章の発達過程との違いとその理由を学生たちに最初から伝えておいた方がよいというご意見や、教材等の提示の仕方について、後ろの座席の学生には見えにくいいため、後ろまで見えるようにする工夫が必要であることなどがあった。

おわりに

今回の研究授業を終えて、また、後に行われた検討会や記録を通して、特技や語り口など、授業者が意識していない問題点や良さに気付くことができ、大いに学ぶことができました。とくに検討会において、授業者の反省点を補うようなご意見をうかがうことができ、とても参考になった。

最後に未熟な授業者の研究授業に協力していただいた学生をはじめ、貴重なご意見、ご指導をくださった諸先生方に感謝いたします。

参考文献

待井和江・福岡貞子編『乳児保育第7版』ミネルヴァ書房、1984年。
今井和子『0・1・2歳児の心の育ちと保育』小学館、1998年。

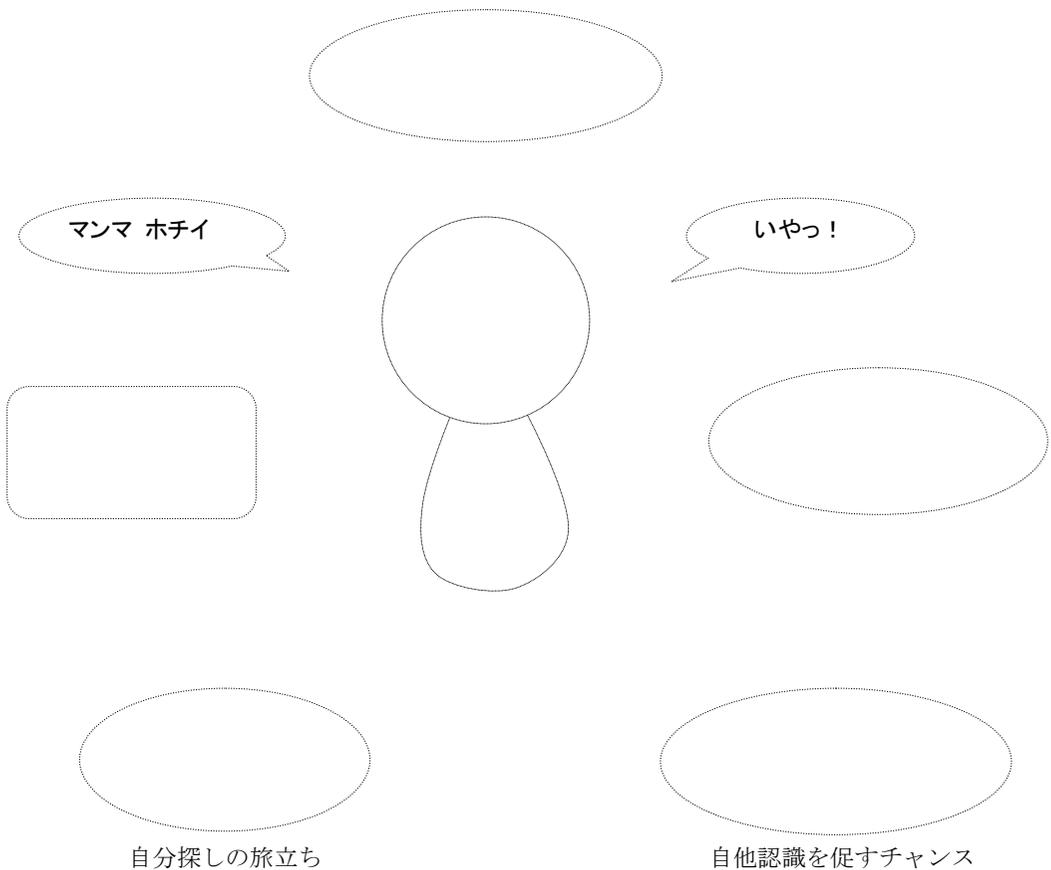
資料1：授業で配布したプリント（点線をなぞりながら乳児のイラストを描く。この日は、「バイバイ」をさせること、足の〇脚や靴の工夫について注意しながら描くように指示した。）

乳児保育

2009.6.18.

1歳3ヶ月～2歳の保育
—自我のめばえ＝他者とは違う自分なりの心の世界の誕生—

I. 体と心の育ち



II. 1歳児に見られる困った行為

1. いたずら—1歳児は探究心旺盛な小さな科学者

2. かみつきの—考えていることを言語化できないもどかしさ

3. 指しゃぶり—よく見極めて対応

寝る時？

生活の切りかえの時？

昼間ひんぱんに？

III. 養護と生活

1. 咀嚼を上手に進めるために

2. 排泄の自立へのステップ
 - ① 体の準備、できたかな？

 - ② オマルやトイレに誘ってみよう

 - ③ おむつからパンツへ

 - ④ 自分から「おしっこ」と言えるように

IV. 遊びと環境

1. イメージする力を育む環境

エピソード やさしくトントン

エプロンをしたちあき母さんが、ウサギの人形の上にハンカチのふとんをかけてやさしくトントンしています。それを見ていたけいたくんは、ちあきちゃんの赤ちゃんと一緒にトントンしはじめました。「だめ！」ちあき母さんは手を払いのけますが、けいたくんはお構いなしに赤ちゃんの上におおいかぶさりトントン。ちあきちゃんの顔は今にも泣き出さんばかりです。

先生は、素早くふとんに人形を寝かせて「あらあら、けいた母さん、赤ちゃんがミルクちょうだいって泣いていますよ。早く帰ってきてください。」と声をかけました。けいたくんが、新しい赤ちゃんに気持ちを移したので、ちあきちゃんにも笑顔が戻りました。二人は顔を見合わせては、自分の赤ちゃんにトントンして楽しんでいます。いつのまにかまわりには赤ちゃんにご飯をあげるお母さんや自分でお腹に風呂敷をかけて寝て赤ちゃんになったつもりの子どもなど、お人形さんの棚の前はおおにぎわいでした。



2. ひとり遊びがじっくり楽しめる環境

資料：楽しく遊べるための保育室内の環境チェック

- * 日頃、保育者の禁止や拒否のことばが多すぎませんか？
- * かみつき＝乱暴ばかりして困った子、という見方をしていませんか？
- * 子どもたちのしたい遊びが楽しめていますか？
- * ものが多すぎて圧迫感を与えていませんか？
- * 子どもたちが動き回れる空間が、少なくないですか？
- * 一人ひとりの子が、求めている好きなおもちゃは整っていますか？

資料2：ミニレポート（授業を振り返って感じたことや質問事項をB5半分の大きさの用紙に記入する。以下の資料は、授業当日に配布したミニレポートの用紙である。）

  乳児保育 ミニレポート 6月18日 学籍番号 _____ 名前 _____



  乳児保育 ミニレポート 6月18日 学籍番号 _____ 名前 _____



研 究 紀 要
第52・53合併号

平成22年 2月25日 印刷

平成22年 2月28日 発行

編集発行 高 松 大 学
高 松 短 期 大 学
〒761-0194 高松市春日町960番地
TEL (087) 841-3255
FAX (087) 841-3064

印 刷 株式会社 美巧社
高松市多賀町1-8-10
TEL (087) 833-5811